

国交省・運輸政策審議会・中央新幹線小委員会 「リニア中央新幹線」に疑問続出！ JR東海・山田佳臣社長へのヒアリング

JR総連と共に傍聴参加！

5月10日、国土交通省・交通政策審議会鉄道部会・中央新幹線小委員会(第3回)が開催されました。今回は、リニア中央新幹線に関する事業計画等について、JR東海へのヒアリングが行われました。

JR東海から山田社長、金子常務取締役、白國執行役員、宇野執行役員が出席しました。山田社長は、事業計画及び超電導リニアによる中央新幹線の実現などについて説明すると共に、①大規模地震に備えて超電導リニアによる中央新幹線の必要性。②国からの資金援助は求めないで自己負担で完遂できること。③最短ルートで名古屋2027年、大阪2045年の開業に向け早期着工をしたい。との考え方を説明しました。

ところで、これまで会社がリニア中央新幹線の必要性として強調していた、「東海道新幹線の輸送力の限界」について、山田社長は一切触れませんでした。このことは、当初のあまりにもずさんで甘い計画そのものが崩れているという事実が、ひた隠しにされていると言わざるを得ません。

この会社の説明に対し、12名の委員から厳しい質問がありました。

- ①国の協力を得ない長期プロジェクトでリスクが大きすぎ、株主は理解できないのではないか。
- ②経年劣化と地震対策としてリニア中央新幹線の必要性を強調しているが説明不足である。
- ③大阪までの旅客は名古屋で乗換えとなり大変である。かえって飛行機の利用の方が増えるのではないか。
- ④リニア中央新幹線を作っている只中に地震が発生したらどうするのか。
- ⑤リニア中央新幹線開業で需要が増えるとしているが、その根拠は何か。
- ⑥労働組合と丁寧な議論が必要である。どのように進めているのか。

など厳しい指摘・意見がが出されましたが、山田社長は、具体的な数値や根拠を示さず、極めて希望的・抽象的に決意を語ることしかできませんでした。

実現可能とした根拠・必要性の曖昧さに疑問！
甘い計画に指摘が相次ぐ！